

駐大連北九州市経済事務所

◆所長 尾崎 英一 ◆副所長 桑田 大輝

◆副所長 呂 俐

尾崎 Email: suozhang@kitakyusyu-dl.com

コロナ禍の中国

コロナ禍により、私たち日本人スタッフは、1月下旬の春節休暇以降、大連に戻ることが出来ず、日本で業務を行ってききましたが、10月によく大連に戻ることができ、指定施設での14日間の隔離を経て、事務所に復帰しました。約9か月もの間、事務所を不在にすることになり、関係各位にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

また、本年度からは中国全土を当事務所でカバーします。気持ちを新たに、本市経済振興のため、精いっぱい努力させていただきます。引き続きよろしく願いたします。

今回は、コロナ禍における中国の様子についてレポートします。

■経済の回復と高い警戒感

世界で最初にコロナ禍に見舞われた中国ですが、現在は、抑え込みに成功、ほぼ市中感染はないという前提で生活できるようになっています。外食や国内観光もコロナ禍以前に戻りつつあり、経済的にも再び成長軌道に乗ってきました。

とはいえ、中国の感染症への警戒感はとても強いです。成田発大連便の乗客の中には、防護服姿の中国人もいました。大連空港ではお迎えは禁止で、市政府手配の車で指定の隔離施設に向かいます。14日間の隔離中は部屋から一步も外に出ることができません。

私は渡航前後1か月の間で、合計4回PCR検査を受けることとなりました。大連渡航3日前、大連空港到着後、隔離中、上海出張前の4回です。7月には大連市内で感染が発生しましたが、4日間で全市民(約600万人)のPCR検査を無料で行い、感染拡大を食い止めたとのことです。

また、中国では健康アプリの登録が必須です。個人ごとに管理されており、安全な人ならば「緑」表示になりますが、感染発生地域に行くなどで、「黄」「赤」に変化します。公共交通機関利用時など、提示を求められ、特に国内出張の際は必須です。

このように検査と隔離を徹底し、中国では市中感染を抑え込んで、経済活動を再開させています。



📱 健康アプリの表示

■上海・中国国際輸入博覧会

11月6～7日に上海で中国国際輸入博覧会に参加しました。この博覧会は、33万㎡という広大な会場に日本からも400社以上出展という大規模なもので、このような大規模イベントがこのご時世開催される自体に驚きました。

特に、環境を意識した電気や水素の自動車や、医療分野の展示は目を引き、中国でのこれらの分野への関心の高さを感じました。

しかし、やはり、感染対策は厳重で、参加するためにはPCR検査による陰性証明と上海到着前の14日間の体温確認が必要でした。（PCR検査は大連市内で、100元（約1500円）で受けることができ、検査をうけることについては、日本よりハードルは低いです。）また、入場者も通常の3分の1程度に制限されていたとのこと。

食品関係は、ウイルス付着の確認などで検疫が厳しくなっていて、サンプルが届いていないブースも多く、また日本から売り込みに来られないため、オンラインでの商談がほとんどで、制約が多かったことは否めませんでした。現状でできる範囲で、関係者が苦心して取り組んでいる印象でした。



食品ブースの様子
(昨年はもっと混雑していたとのこと)

水素自動車の展示

■大連に渡航して1か月余りを振り返って

日本に旅行して買い物ができない今も、中国国内では日本製品の需要は高く、アフターコロナの旅行先として、日本に行きたいという方も多いです。この年末にかけて、日本に関するプロモーションイベントが各地で多く開催されており、感染対策を厳格に行いながらも、中国経済の力強さと日本への関心の高さを感じます。

一方で、一部の飲食やサービス業などにおいては、コロナ禍以前より人員を大きく削減していて、せっかく感染を抑え込んで賑わいが戻っても、完全には対応できていないような事例も散見され、元気な中国とはいえ、完全には立ち直ってはいないとも感じます。

このような状況の中、私たち事務所スタッフは、現在可能な形で本市のプロモーションや現地情報の収集に努め、本格的な往来、経済活動再開時に向けて、需要の掘り起こしを図りたいと考えています。中国関係で何か御用がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。